

望ましい体育的行事のあり方について

～運動会を考える～

生活・健康系 保健体育分野

M1 財田 和明

週五日制が月2回実施される中で、各小学校がいま最も苦慮していることは、教育課程編成の中で標準授業時間数をいかに確保するかという短期的な課題である。この時数調整の作業において、各小学校はどちらかという量的な削減に終始し、安易に学校行事削減という方向に動いている。学校行事を安易に削減するとそれが復活する見込みはほとんどない。その結果、子供がその活動を経験する機会が失われることから、どこかの学年でそれを体験するよう配慮しなければならない。また、学校行事と他の教育活動とを統合すれば、それぞれの目標が混同されたりあるいは相殺されることが起こりうる。こうした事態に対処するため、学校教育の果たすべき役割を再検討し、統合された活動によって、何を、どこまで、どのように実現できるかを教科ごとに明確にすることが必要である。

その学校行事の中であって、体育的行事というものは学校行事の中の健康安全・体育的行事として実施されるものである。具体的には

- 1, 運動会、体育大会
- 2, 競技大会（水泳、陸上競技、スキー、スケート、マラソンなど）
- 3, 球技大会（バスケット、サッカー、ドッジ、ソフトボールなど）

などがあげられる。その中の代表的事例として、どこの小学校でも実施されているのが運動会（地域によっては体育大会という名称になっているところもある。）であって、その具体的内容をプログラムからみると、「ああ、懐かしいな。」と思われる方が大半ではないかと推測する。種目の名称はそれなりに時代の流行を取り入れたものになっているけれども、内容からみれば、大玉転がしや玉入れ、綱引き、徒競走といったものがあり、なんら変わるところがないのである。もしかするとこの部分だけでみれば戦前から変わりがなかったかもしれない。

H 小学校

K 小学校

- ★☆☆ 自由部の部
1. ラジオ体操No.1
 2. 80m走
 3. 100m走
 4. ありさんのかくらべ
 5. 50m走
 6. いけいけ!!はりまっ子PART
 7. 台風の日
 8. ダイナマイトなんかこわくない!!
 9. 大兄ころがし
 10. いけいけ!!はりまっ子PART
 11. ア織対抗リレー
 12. にぎやかカーニバル
 13. 80m走
 14. ア織対抗リレー
 15. 騎馬戦

- ☆☆☆
- 全校生
4年生
5年生
3年生
1年生
はりまっ子クラス
4年生
2年生
1年生・播磨幼稚園
はりまっ子クラス
5・6年生
1・2年生
3年生
2年生
5・6年生

- ☆☆☆ 1. 後の部
16. サポート・タイム
 17. 心はひとつ
 18. サイは投げられた
 19. 100m走
 20. 5人入れ
 21. 50m走
 22. ア織対抗リレー
 23. いけいけ!!はりまっ子PART
 24. 綱引き
 25. 組体操

- ☆☆☆
- 各組サポーター
PTA
3・4年生
6年生
1・3・5年生
2年生
3・4年生
はりまっ子クラス
2・4・6年生
5・6年生

1. 体操
 2. 走
 3. 団体
 4. 団体
 5. 団体
 6. 走
 7. リズム
 8. 団体
 9. 団体
 10. リレー
 11. 団体
 12. 走
 13. リレー
 14. ダンス
- 開明っ子体操部.....全学年
健 健 健.....3・4年
親子でバーン.....6・7年
お団子を落とさないで.....3年
ピンのりリレー.....2年・3年
健 健 健.....5・6年
わんぱく冒険隊「HEY!!」.....1・2年
キャタピラでゴー!.....4年
騎馬戦「庄下川の合戦」.....5・6年
宇級対抗全員リレー.....4年
神様おねがい.....青友会
健 健 健.....1・2年
宇級対抗全員リレー.....5・6年
ハローマイフレンド.....全学年

- 青友会長あいさつ
昼食・休憩
***** 花 壇 合 演 *****
15. 団体
 16. 団体
 17. リズム
 18. リレー
 19. マスゲーム
- 全校つなひき.....全学年
紅白玉入れ.....1・2年
「サ・カムイ」.....3・4年
紅白対抗リレー.....運 抜
「1997101・BARTH」.....5・6年

運動会＝体育科教育と短絡的には考えられないけれども、種目の内容からみてもわかるように、体育の授業でおこなわれるものとは程遠いものが盛り沢山である。応用的な範囲としてみてもおおよそ運動会のためだけの種目として成り立っている。このために、どれだけの授業時間数を割いているかというと

H 小学校 授業実施時間数集計表

平成6年度		学年 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. () 小学校														計	
	種 目	一 年 期					二 年 期					三 年 期				計	計
		4	5	6	7	計	9	10	11	12	計	1	2	3	計		
体 育	田 球	73	25	33	14	75	23	26	26	21	96	15	22	23	70	211	
	社 会	12	19	15	6	52	9	11	11	10	41	8	14	11	33	126	
	科 学	15	16	25	9	65	18	21	20	16	75	12	21	12	47	187	
	算 数	8	9	12	12	47	7	10	8	10	35	9	12	8	29	111	
	道 徳	3	7	8	2	20	6	9	11	5	31	4	8	4	16	67	
学 校	園遊工作	6	4	8	4	22	7	6	8	6	27	4	8	2	14	67	
	家 庭	8	14	8	10	40	23	11	10	6	50	8	12	8	38	118	
道 徳	2	2	4	2	10	4	2	3	2	11	3	2	2	7	28		
特 別	学級活動	5	1	1	7	14	5	2	1	9	17	4	1	3	8	39	
	児童会誌	1	2	1	1	6	0	1	3	1	5	0	1	3	4	15	
	クラブ誌	2	3	3	2	10	2	4	4	3	13	3	4	3	10	33	
	協会的	2	0	0	1	3	1	0	0	1	2	1	0	4	5	8	
	学級的	0	0	2	0	2	0	0	4	0	4	0	0	0	0	6	
備 考	特別活動	1	4	0	0	5	0	6	0	0	6	3	0	0	3	11	
	特別活動	0	6	0	0	6	0	0	5	0	5	0	0	0	0	6	
	特別活動	0	0	0	2	2	0	0	4	0	4	0	0	0	0	6	
	特別活動	0	0	0	2	2	0	0	4	0	4	0	0	0	0	6	
特別活動	89	112	126	72	399	165	107	118	90	422	75	115	84	271	1092		
大 体 育	7	5	1	7	20	4	3	0	2	9	4	0	6	10	39		
特別 計 数	20	23	25	16	83	22	23	23	19	87	19	23	19	61	281		

体育は週3時間おこなわれることからして、およそ20時間も多いたことがわかる。この時間数の中には、運動会そのものの準備や用意に関する時間は含まれていないので、その時間数も含むとかなりの時間数のオーバーとなる。運動会そのものは一日弱ないしは半日強というところだから、問題にされるのは行事としての時間よりもそのための練習時間なり準備時間であるといえる。

しかし、運動会そのものは子供にとって何事にも変えがたい楽しみであり、喜びであるはずである。だから、日々の授業の中に運動会の実施される種目が教材としてあるいは単元として生かされてきてもいいような気がする。低学年が授業において大玉転がして、どうやったら速く転がせて次の人にパスできるかを3人ないし4人で協力しながら考えて練習する。また、大玉を使っての自分達流の競争や遊びが工夫でき、それが運動会での学習発表の場となれば少なくともすべてに指示され怒られながらするよりはずっと楽しいし自立しているはずである。つまりは、この根底にあるものが、新学力観の真髄ではないかと考える。

よって、今求められ問題にしなければならないことは、授業に根ざした行事であり指導計画の作成だと考える。運動会が運動会として成り立っているのではなく、基盤となる教科の日々の実践の上にあるのだから少なくとも、学習としての意味付けが必要であろう。集団行動を見せるために整列の仕方から、入退場の練習に明け暮れるのではないはずである。観覧者（保護者）はなにより子供達の生き生きした様子を楽しみにしているのである。その様子から学校なり授業を感じ取っているはずである。そんなことを念頭におきながら、指導（支援）という立場であれば、およそ、スピーカーを通しての怒鳴り声はまず無くなるであろうと期待している。

参考文献

- | | |
|--------------------------|-----|
| 小学校指導書 体育編 | 文部省 |
| 小学校体育指導資料 指導計画の作成と学習指導 | 文部省 |
| 小学校指導書 特別活動編 | 文部省 |
| 小学校特別活動指導資料 指導計画の作成と学習指導 | 文部省 |